

熊本・益城の倒壊住宅の9割、前震でなく本震で

2016年08月25日 00時11分

今年4月の熊本地震で、前震と本震の2回にわたり震度7の揺れに見舞われた熊本県益城

ましき

町では、倒壊した住宅の約9割が前震ではなく、本震で倒壊していたことが分かった。

国土交通省の国土技術政策総合研究所が24日、福岡市内で開かれた日本建築学会で報告した。2度の強い揺れが重なり、本震で建物被害が拡大したことが、改めて浮き彫りになった。

同研究所などの調査によると、地震の被害が集中した同町役場周辺では、木造住宅1955棟のうち、計297棟が倒壊した。さらに14日の前震と16日の本震の間にあたる15日に撮影した航空写真を分析したところ、調査範囲では37棟(12%)が前震によってすでに倒壊していたことが判明。残りの260棟(88%)は本震後に倒れたことが分かった。

(ここまで334文字 / 残り180文字)

2016年08月25日 00時11分 Copyright © The Yomiuri Shimbun